

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.37					3.6
1 音環境		3.0	0.15					3.0
1.1 騒音		3.0	0.40					
1 室内騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	1.00					
2 界壁遮音性能		-	-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-					
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		2.8	0.35					2.8
2.1 室温制御		2.6	0.50					
1 室温		3.0	0.46					
2 外皮性能		1.0	0.19					
3 外皮性能		3.0	0.35					
4 ゾーン別制御性		-	-					
2.2 湿度制御		3.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		5.0	0.25					5.0
3.1 昼光利用		5.0	0.55					
1 昼光率		-	-					
2 方位別開口		-	-					
3 昼光利用設備	モール部分にトップライトを採用。	5.0	1.00					
3.2 グレア対策		-	-					
1 グレア対策		-	-					
2 昼光制御		-	-					
3.3 照度		-	-					
3.4 照明制御	テナント区画ごとに制御が可能。	5.0	0.45					
4 空気質環境		4.0	0.25					4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	原則、F☆☆☆☆。VOCも放散量が少ない建材を採用している。	5.0	1.00					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.50					
2 自然換気性能		-	-					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50					
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能		-	0.30					3.1
1 機能性		3.1	0.40					3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					
1 広さ・収納性		-	-					
2 高度情報通信設備対応		-	-					
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		3.4	0.30					
1 広さ感・景観	売場の天井高さ3.3m以上を確保。	4.0	0.35					
2 リフレッシュスペース		1.0	0.31					
3 内装計画	インテリアパースによる内装計画の検証を行っている。	5.0	0.35					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		2.8	0.31					2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		2.3	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.4	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用。井水利用。	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	光ケーブル、携帯電話網などを地上階に設置。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.31			
1	階高のゆとり	商業棟は階高3.5m以上を確保。	4.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.07	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.1	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕・更新可能。	4.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.33			2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.9
LR1 エネルギー			-	0.40			4.5
1 建物の熱負荷抑制		PAL*=553 (基準値:727)	5.0	0.22			5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.22			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトによる自然光利用。	4.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		LED照明の採用。	4.9	0.34			4.9
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.9				
		集合住宅の評価					
4 効率的運用			4.5	0.22			4.5
4.1	モニタリング	BEMS(中央監視により)エネルギー監視が可能	5.0	0.50			
4.2	運用管理体制	運用・維持・保全の基本方針が計画されている。	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.4
1 水資源保護			3.8	0.15			3.8
1.1	節水	節水型便器の採用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	井水利用をしている。	4.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63			3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	磁器タイル、点字紙、硬質塩化ビニル管等	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22			3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68			
1	消火剤	不活性ガス(窒素ガス)を使用している。	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2が74%	4.0	0.33			4.0
2 地域環境への配慮			3.2	0.33			3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場、荷捌きの確保。	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ保管庫の設置と運営	5.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.50			
2	振動		3.0	0.50			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインに基づくサイン・広告計画としている。	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			